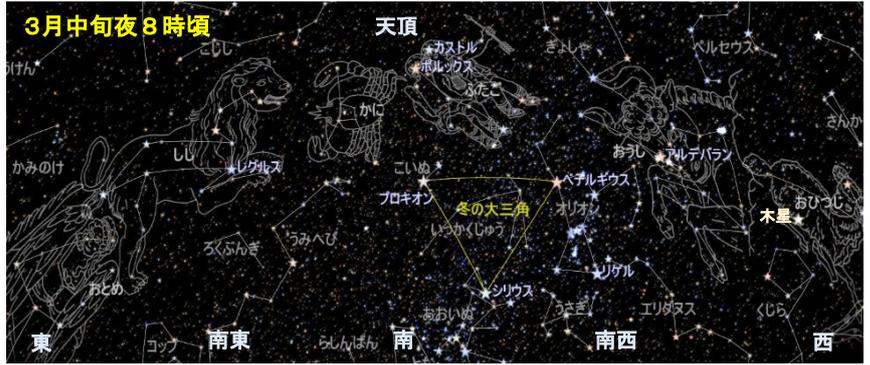


ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

3月は20日に春分を迎え、昼と夜の長さが同じになります。春分を過ぎるとだんだん昼の時間が長くなり、日の入りも遅くなりますが、そんな3月の中旬夜8時頃の星空を見上げてみると、冬の星座と春の星座が夜空を二分しています。天頂の辺りに並んで

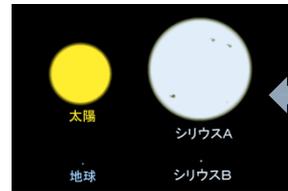


いるのは「ふたご座」のキャストルとポルクス。南から南西の空には明るい星が多い冬の星座が広がり、「こいぬ座」の1等星プロキオン、その南には全天で1番明るい1等星「おおいぬ座」のシリウス、そして「オリオン座」の赤い1等星ベテルギウスでつくる《冬の大きな三角》がとても目立っています。一方、南東の空には、春の代表的な星座「しし座」が高い位置に昇り、「しし座」と「ふたご座」の間には肉眼では見つけにくい「かに座」があります。「かに座」は暗い星ばかりで自立たない星座ですが、4つの星で囲まれたカニの甲羅の中にある《プレセペ星団》が有名です。プレセペ星団は200個以上の星の集りで、夜空が暗いところでは肉眼でも光のかたまりがぼんやりと見えますが、双眼鏡で見れば、40個ほどの星がはっきりと観察できます。3月から4月が見頃なので、ぜひ探してみてください。さて、今の時期は、太陽の通り道(黄道)に位置する星占いの星座(黄道十二星座)のうち、6つの星座が並んでいます。西から順に「おひつじ座」「おうし座」「ふたご座」「かに座」「しし座」「おとめ座」です。春の夜空をゆっくりと眺めて、星座たちを見つけてみましょう。



★ おおいぬ座 α 星「シリウス」

青白く輝くシリウスは、地球から8.6光年と距離が近く、全天で1番明るく見える恒星です。肉眼では1つの恒星に見えますが、実はシリウスA(主系列星)とシリウスB(白色矮星)の連星です。シリウスAの見かけの明るさは、約-1.5等級で、質量は太陽の約2倍、直径は1.7倍ほど。表面温度は約10,000度で、絶対等級は太陽の約25倍もあります。シリウスBは白色矮星で8等級と非常に暗く、直径は地球とほぼ同じなのに、質量は太陽と同じくらいある超高密度な星です。シリウスとは、ギリシャ語で「焼き焦がすもの」という意味で、ガラガラと輝くその明るさで古くから知られており、古代エジプトではナイル川の氾濫を教える重要な星だったそうです。



星の名	シリウス
星座	おおいぬ座
明るさ	-1.4等
距離	8.6光年



★ 月が木星に接近!

3月13日から14日にかけて、日の入り後の西の空で細い月が木星に近づきます。13日は、木星の下の方に三日月のような細い月が見えます。この細い月は実際には三日月ではなく、新月から数えて4日目の月にあたり、四日月と呼ぶこともあります。14日は、月は木星より高い位置に見えます。15日には、月はおうし座のすばる(プレアデス星団)に近づきますが、月の明るさに比べ星団の星々は暗いので、肉眼で見つけるのは難しいかもしれません。

※星図はステラナビゲーター11を用いて作成
月は大きさを強調して描いています

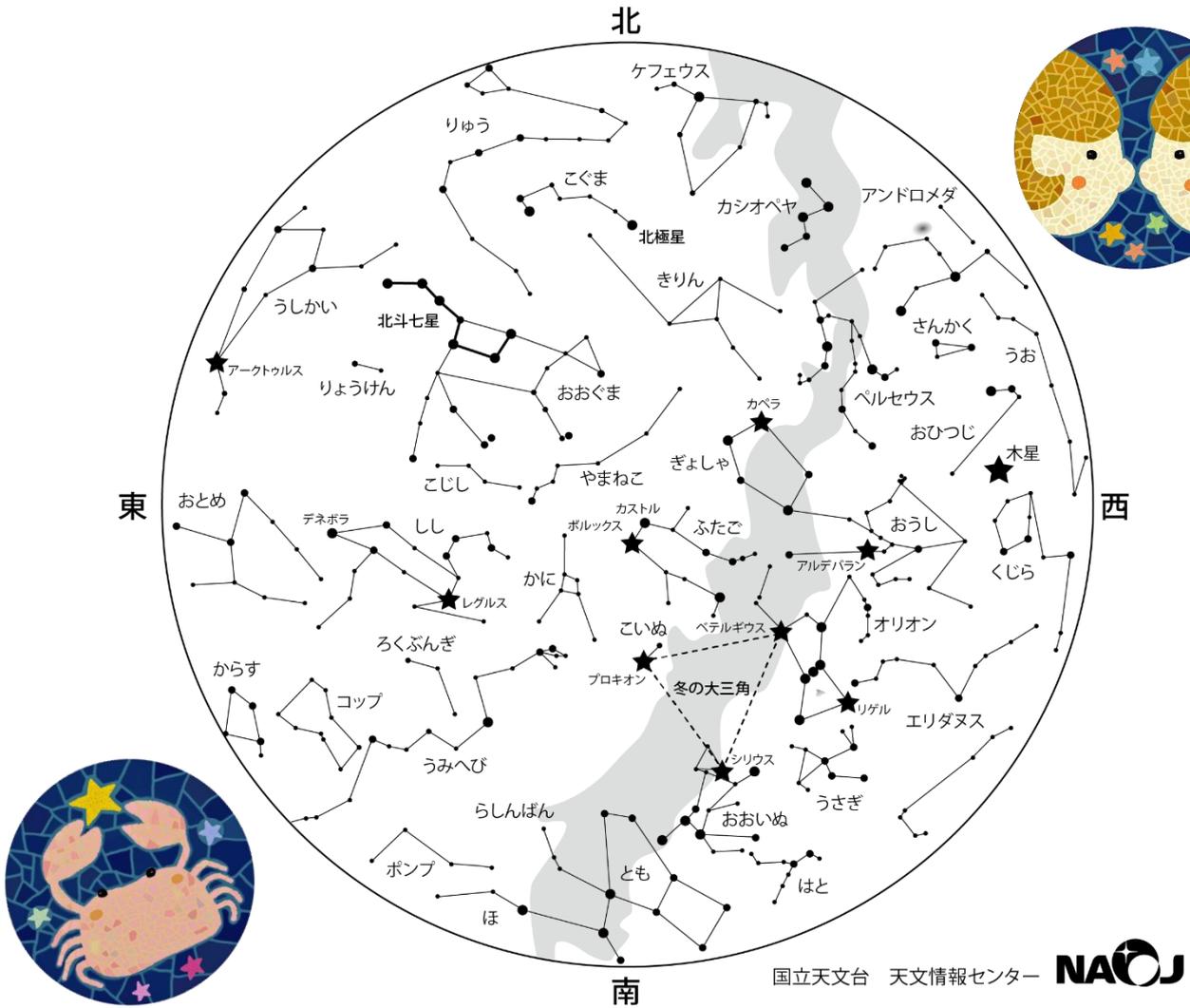


★ 3月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください ☆☆

★ プラネタリウムのお休み

3/4(月)、7(木)、8(金)、11(月)、18(月)、21(木)、22(金)、25(月)

3月上旬午後8時30分頃の星空



★ 3月上旬の主な天文現象

4日(月) ● 下弦、準惑星ケレス と球状星団M22が接近	11日(月) 細い月と水星が接近
5日(火) 啓蟄	14日(木) 細い月と木星が並ぶ
10日(日) ● 新月	15日(金) 月とプレアデス星団が接近

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 3/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 3月 5日(火) [見やすさ◎]	5:38 北北西	~	5:44 東南東
◇ 3月 7日(木) [見やすさ◎]	5:38 北西	~	5:44 南東
◇ 3月 8日(金) [見やすさ◎]	4:51 北西	~	4:56 南東
◇ 3月 13日(水) [見やすさ◎]	19:00 南西	~	19:05 東北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。